

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費(円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
広域誘客促進に向けた受入態勢強化事業	総務企画部	安杖一	地域企画課	企画・しらかみ観光振興班	0185-55-8004	アフターコロナを見据えた観光資源のブラッシュアップに取り組んだ。	1,347,372	<p>①インバウンド誘客を見据えた滞在型観光スタイル実践・研修事業 宿泊施設等における訪日外国人旅行者の旅行満足度を高めるため、国際教養大学の学生等をモニターとした対応力向上のための実践研修を三種町で実施した。 【モニタリングイベント】 □実施日：令和2年9月26日(土)～27日(日)、10月24日(土)～25日(日) □参加者：10名(各回5名) □内 容：農家民宿等における宿泊体験、田舎料理づくり体験、収穫体験 等 【勉強会】 □実施日：令和2年12月21日(月) □参加者：13名(「田舎暮らし大学みたね」等の観光関係者) □内 容：モニターからの意見を踏まえた今後の取組に関する意見交換</p> <p>②地域観光資源潜在力調査 観光地創生支援事業を活用し地域連携DMO「あきた白神ツーリズム」が開発した新ご当地グルメ「かましメン」の認知と魅力を高めるため、首都圏において期間限定販売を行った。 □期 間：令和3年1月25日(月)～3月31日(水) □場 所：さとむすび(東京都大田区、羽田イノベーションシティ内) □内 容：「かましメン」2メニューを再現、計432食を販売</p>	県	観光関連事業者、首都圏在住者	令和2年4月1日	<p>① ・食材のアレルギーや宗教への配慮に関する情報提供、1泊2日の行程における食に関する体験コンテンツへの偏りの改善などに関する意見を聞くことができた。</p> <p>② ・2メニューは全国各地のご当地グルメとの比較において平均以上の販売実績となり、首都圏消費者の食に対するニーズとの親和を確認することができた。</p>	<p>① ・ツアー行程に食以外のアウトドアアクティビティを組み合わせることに留意することなどの認識を関係者間で共有することができた。 ・旅行者目線からの改善点を把握した次のステップは、旅行商品として「売り出す」ことであり、地域連携DMO「あきた白神ツーリズム」と連携し、あきた白神エリアの他市町の観光コンテンツと組み合わせ、旅行商品の造成に取り組んでいく。</p> <p>② ・委託先からは、首都圏消費者の味覚に配慮し、味付けや調理方法についての改善ポイントが提示されたことから、その内容をメニュー提供元にフィードバックし、更なるブラッシュアップを支援していく。</p>

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費(円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業効果(成果・満足度)	自己評価
新卒者地元就職意識啓発・企業活動支援事業	総務企画部	安杖一	地域企画課	企画・しらかみ観光振興班	0185-55-8004	若者が地元で活躍する企業を知る機会の確保や人材の確保と定着を図る取り組みにより能代山本地域で活動する企業を支援した。	1,083,075	<p>①ふるさと企業「仕事ナビ」の作成・配布 管内企業で働く若手社員へのインタビュー記事や1日の業務スケジュール、企業概要などをまとめた冊子を作成し、高校生へ配布した。 □仕様:A4カラー、36ページ □部数:1,000部 □配布先:管内高等学校5校(2年生全員約600人)、管内支援学校高等部、県内大学、管内市町、商工団体等</p> <p>②ふるさと企業・業種ガイダンスの開催 能代市等と連携し、高校2年生等を対象にした管内企業等の説明会を開催し、高校生の地元就職の促進を図った。 □開催日:令和3年2月9日(火) □会場:能代市文化会館中ホール、能代市中央公民館第1研修室、第2研修室、第5研修室、視聴覚室</p> <p>③能代山本関東圏企業懇談会の開催 管内市町と連携し、誘致企業やその本社・親会社等との交流を深めて結びつきを強め、事業縮小を防ぎ、雇用維持を図るための懇談会を開催する。 □主催:能代関東圏企業懇談会実行委員会(能代市、藤里町、三種町、八峰町、振興局) □新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で東京での懇談会を中止し、管内の特産品や観光パンフレット、企業支援策の案内を誘致企業やその本社・親会社等に送付した。 □送付先:76社</p> <p>④ようこそ先輩地元就職・企業魅力発見事業 管内高校へ地元企業などに勤務する若手社員を講師として派遣し、地元で就職することの魅力等についての研修を行った。 □開催日:令和3年2月22日(月) □会場:二ツ井高校 □参加者:生徒17人 教員7人 企業2社</p>	県、市、商工団体等	高校生等	令和2年4月1日	<p>①アンケートでは、96.8%の高校生が当冊子を読み、掲載内容や会社概要についても高い評価を得ていることから、満足度は高い。</p> <p>②回収したアンケートでは、本事業について満足していると回答した高校生は96.8%である。</p> <p>また、参加した企業からも採用活動に効果の見込める内容であった、自社や業種について知ってもらえる機会になったと回答を頂いた。</p> <p>参加した全企業で来年度以降の開催も必要だと感じており、継続して実施する必要がある。</p>	<p>①「掲載している企業の他にも、様々な業種を見てみたい」との意見があり、女子向けの企業など、幅広い業種について掲載を検討していく必要がある。</p> <p>②管内の高校生が地元の企業を知る機会になり、企業側も自社・業種について高校生に知ってもらえる機会になった。</p> <p>高校生から「より幅広い企業・業種の話を知りたい」という意見もあった。能代山本管内の施設のキャンピング、予算、ソーシャルディスタンスなどを考慮し、参加企業について検討していく必要がある。</p> <p>③コロナ禍では通常どおりの開催は難しいが、管内市町や各企業との連携を深め、雇用維持・創出に繋げるためには、形を変えつつも、事業を継続して実施する必要がある。</p> <p>④管内の全高校に事業について周知したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響か、実施に踏み切る学校が少なく、振興局で事業実施の補助を含め、高校へ働きかけていく必要がある。</p>
								令和3年5月20日			<p>③新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で通常どおりの開催は困難であり、管内の特産品、観光パンフレット等を76社に送付した。</p> <p>④「例年開催していたインターンシップが実施できなかったこともあり、企業の話聞くよい機会になった」という意見があった。</p> <p>「高校のOBである若手社員の高校時代の話、現在の話を間近で聞くことで、地元で働くことについて、よりイメージできた」という意見も見られた。</p>		

事業名	部名	部長名	担当	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費(円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
高校と連携した農業人材・労働力確保対策事業	農林部	山崎司	農業振興普及課	担い手・経営班	0185-52-1241	管内の高校生とその保護者に対して就農に関するセミナー、就業体験等を実施し、職業選択肢の一つとしての農業の意識付けを図った。	154,310	<p>①アグリセミナー「農業を仕事にしよう!!」職場見学 農業法人を訪問し、業務内容、雇用条件等の説明、職場見学の実施 □開催日:令和2年7月8日(水) □視察先:(農)轟ネオファーム、朝場畜産(株)、(株)ミツ農研、(有)峰浜培養 □参加者:能代西高農業科2年生 25名</p> <p>②地域農業体験研修 地域農業理解、職場を理解するためのグループ別の農業体験(1日) □開催日:令和2年10月12日(月) □場 所:(農)轟ネオファーム、(農)能代グリーンファーム常盤、(同)久保井ファーム、朝場畜産(株)、(有)峰浜培養、(株)アルピオン白神研究所 □参加者:能代西高農業科2年生 25名</p> <p>③就農啓発 農業を仕事にするための就農形態、就農支援施策等を掲載したパンフレットの作成 □部 数:1,000部 □配布先:管内全高校2年生、市町</p>	県	高校生等	令和2年4月1日	<p>①、② ・生徒からは、農業関連の就職を考えていなかったが体験を得て興味があった、将来就職する上で今回の経験を活かしたいとする意見があった。</p> <p>①、② ・受入先の農業法人からは、農業の仕事を理解してもらえて良かった、将来従業員になってほしいとの声があった。</p>	<p>①～③ ・非農家出身の生徒が多く、自営就農はハードルが高いが雇用就農という職業選択肢があることを周知できる機会となった。</p> <p>② ・雇用就農の場合、高校生は正職員を希望しているが、管内の農業法人では正職員のハローワークへの求人登録が少なく、雇用する側の環境整備が必要である。</p>
											令和3年5月20日	<p>①～③ ・学校側からは、就職した時のイメージが出来て良い、研修後雇用就農を希望したいと話す生徒がいたとの意見があった。また、今回新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、予定していたインターンシップを中止したが、農業に特化したインターンシップを学校ではできないため、是非継続して実施してほしいとの要望があった。</p> <p>①、② ・昨年参加した3年生のうち、2名が自営就農した。</p>	<p>①～③ ・就業体験やインターンシップ等で、高校生と農業法人との関わり合いを深めながら、継続して就農啓発を行うことが重要である。</p>

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費(円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
山本地域で掘り起こせ！ 農業人材・労働力確保対策事業	農林部	山崎司	農業振興 普及課	産地・普 及班	0185-52- 1241	山本地域における 農業労働力を確保 するため、農福連携 が円滑に定着する 仕組みづくりを支援 するとともに、短時間 パート勤務が可能な 子育て世代からの 労働力の掘り起こ しを図った。	65,806	<p>①県内の農福連携実践事例の視察 農福連携を理解するため、視察研修会を実施した。 □開催日：令和2年9月11日(金) □視察先：檜山地区ねぎサテライト団地 □参加者：20名</p> <p>②農業者との橋渡しのためのトライアル期間を設定 農福連携取組希望生産者との就労前トライアル(お試し期間)を支援した。 □開催日：令和2年8月3日～28日(9日間) □受入先：大規模ねぎ生産者(三種町外岡) □参加者：合同会社尚生の障がい者施設利用者 4名</p> <p>③子育て世代へのPRパンフの作成配布 パンフにより「子育て世代向けアグリツアー」の開催のPRを行った。 □部数：4,447部 □配布先：能代市内の幼稚園、保育園、小中学校</p> <p>④子育て世帯向けアグリツアー ねぎ調整作業を見学、また実際に調整作業を経験し、無料職業紹介所への求職者登録及び1日農業バイトアプリ「daywork」の利用を促した。 □開催日：令和2年10月5日(月)～10月9日(金) □受入先：能代市農業技術センター □参加者：7名(能代市内の保育園、小中学校に通う児童、生徒の保護者)</p>	県	<p>①管内の農業者、関係機関</p> <p>②大規模ねぎ生産者(三種町外岡)、合同会社尚生の障がい者施設利用者</p> <p>③能代市内の幼稚園、保育園、小中学校に通う児童、生徒の保護者</p> <p>④能代市内の保育園、小中学校に通う児童、生徒の保護者</p>	令和2年4月1日	<p>① ・農福連携に対する農業者の理解が深まり、令和3年度から新たに研修参加者を含む3つの農業法人が農福連携に取り組む予定である。</p> <p>② ・3名の障がい者が引き続き農作業に従事しており、農業者・福祉事業者それぞれおおむね満足している。</p> <p>③、④ ・子育て世代向けアグリツアーに参加した7名のうち、1名が現場への雇用につながった。また、参加者の満足度はいずれも高かった。</p>	<p>①、② ・農福連携に対する農業者の理解を深めることができ、既に取り組んだ農業者・福祉事業者双方がおおむね満足しているため、今後更なる取組拡大へつながることが期待できる。</p> <p>③、④ ・子育て世代向けアグリツアーのような求職者向けの職業体験は、農業未経験者の農業現場への参入を後押しするものであり、園芸労働力確保への貢献が期待される。</p>
											令和3年5月20日		

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費(円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業効果(成果・満足度)	自己評価
能代木材インダストリーPR事業	農林部	山崎司	森づくり推進課	林業振興班	0185-52-2181	能代・山本地区の地場産業である林業・木材産業を支える人材を確保するため、能代市内の中・高校生を対象とした巡回講座を行い、地元企業への就業に向けたきっかけづくりを行った。	198,000	①地域の中学校を対象に林業・木材産業に関する講話や木工体験を実施した。 □開催日:令和2年10月15日(木)[能代第一中学校]、令和2年10月28日(水)[能代東中学校] □会場:能代市木の学校(能代市河戸川南西山) □参加者:延べ41名(生徒のほか先生及び関係者を含む) ②高校生を対象に林業・木材産業に関する講話や地元企業プレゼン及び木工体験を実施した。 □開催日:令和2年9月23日(水)・10月7日(水)[能代西高校]、令和2年11月10日(火)[能代工業高校] □会場:能代西高校、能代工業高校 □参加者:延べ105名(生徒のほか先生及び関係者を含む) □参加企業:延べ8社	県	①能代市内の中学生 ②能代市内の高校生	令和2年4月1日 令和3年5月20日	①参加した中学生の木材に対するイメージが、木工体験前と比べて良くなったとの意見が多く聞かれた。 ②参加した高校生からは、「卒業後は地元で就職し、車の整備士か建設・土木の仕事に就きたいと思っていたが、木材産業もなかなか面白いと感じた」との意見があった。	①、② ・中高生が林業・木材産業に関する講話を聞く機会を作れたこと、また、実際に木材に触れ木工体験ができたことで、木材に関する興味・関心の醸成を図るきっかけとなった。 ・今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により開催を見送った学校もあった。次年度以降も感染状況に応じた、感染対策を講じた上での事業の推進が必要となる。
建設産業の「魅力・やりがい」発信事業	建設部	伊勢弘	企画・建設課	企画監理班	0185-52-6101	建設業の担い手確保のため、地元高校生の進路選択の参考となるよう、情報発信を行う。	339,900	①高校生を対象とした建設現場見学会管内建設系学科の高校生を対象とした現場見学会を開催し、建設業の魅力を発信した。 □開催日:令和2年11月17日(火)、令和2年11月24日(火) □視察先:一般県道西目屋二ツ井線「荷上場バイパス」工事現場 □参加者:能代西高校2年生52名、能代工業高校2年生11名 ②高校生向けドローン体験会(①現場見学会とあわせて開催) 管内の建設系学科の高校生を対象に建設現場の最新技術を体験させた。 □委託先:大森建設(株) □開催日:令和2年11月17日(火)、令和2年11月24日(火) □会場:能代西工高教室および運動場 □参加者:能代西高校2年生52名、能代工業高校2年生11名	県・(一社)能代山本建設業協会	高校生	令和2年4月1日 令和3年5月20日	①普段目にすることができない建設現場や技術に触れることで、興味を引くことができた。 ②建設系以外のクラスからも「建設業に興味を持った」「このような仕事も良いと思った」との意見を得られた。	①、② ・建設産業について理解してもらおうための情報発信に引き続き取り組む必要がある。

